

財団法人松江市教育文化振興事業団

埋蔵文化財課年報Ⅷ

平成15年度



財団法人 松江市教育文化振興事業団

表紙写真：石出古墳出土の銅鏡

目 次

第1章 財団法人松江市教育文化振興事業団の沿革と組織	1
第2章 発掘調査	3
石田遺跡	5
荒限城跡	7
嵐沢砦跡	9
菅田横穴墓群	11
渋ヶ谷遺跡群	13
山津窓跡ほか	15
井廻古墳	17
宮ノ前遺跡	19
第3章 平成15年度以前の調査	24



松江市位置図

第1章 財団法人松江市教育文化振興事業団の沿革と組織

- ◇ 設立 昭和51年（1976年）4月1日
- ◇ 所在地 島根県松江市学園南1丁目21番1号（平成10年11月住居表示変更）
- ◇ 目的 事業団は松江市及び松江市教育委員会の基本的施策に即応して、その委託を受けた事業及び市内の教育・文化・スポーツの振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事業 目的を達成するため次の事業を行う。
 - (1) 松江市及び松江市教育委員会から委託を受けた教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営。
 - (2) 教育・文化・スポーツの振興に必要な事業。
 - (3) その他、事業団の目的を達成するため必要な事業。

◇ 組織



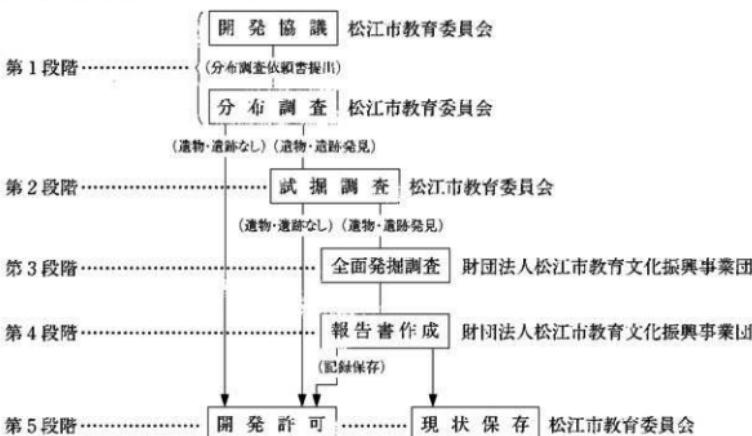
◆ 埋蔵文化財課

- 設立 平成5年7月1日
- 所在地 〒690-0886 松江市母衣町180-21番地
- T E L 0852-28-2065
- F A X 0852-28-2038
- 業務 1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2) 埋蔵文化財課の庶務経理（予算及び決算を含む）に関すること。

◆ 平成15年度調査職員体制（平成16年3月31日現在）

理事長	松浦 正敬
専務理事	田中寿美夫
事務局長	長野 正夫
埋蔵文化財課課長	事務局長兼務
調査係長（調査員）	瀬古 蔚子
主任	門脇 誠也
主任（調査員）	江川 幸子
主任（調査員）	石川 崇、落合 昭久、藤原 哲
嘱託職員（調査補助員）	金坂 有史、野津 里佳、高橋真紀子、陶山 隆 花田 陽子、秦 愛子、廣濱 貴子
嘱託職員（事務）	松本 宏子

◆ 松江市埋蔵文化財業務フロー チャート



第2章 発掘調査

平成15年度におこなった事業は、発掘調査業務8件、報告書作成業務1件の合計9件である。発掘調査は以下のとおりであり、報告書作成は、平成9~14年度に発掘調査した田和山遺跡（9）についておこなった。

石田遺跡（1）は、松江市浜佐田町・嵐津町に所在する。松江西部2期地区農林漁業用排水池財源身替農道整備事業にともない平成14年に発掘調査を実施したが、工事計画の変更により、変更場所について発掘調査を実施した。調査の結果、弥生時代の加工段と古墳時代前期の古墳1基を検出した。古墳の主体部内からは、多量の玉類と銅鏡が出土した。

荒隈城跡（2）は、松江市国屋町に所在する。個人住宅の造成工事にともなう発掘調査である。荒隈本城からは少し離れた場所であるが、広義の荒隈城と思われる。大規模な土木工事による、しっかりした造りの山城遺構を検出した。

薦沢砦跡（3）は、松江市法吉町に所在する。ソフトビジネスパーク進入路予定地の造成工事にともなう発掘調査である。砦を遺構として検出することはできなかったが、周囲の歴史的環境から、砦として機能していた可能性は十分に考えられる。

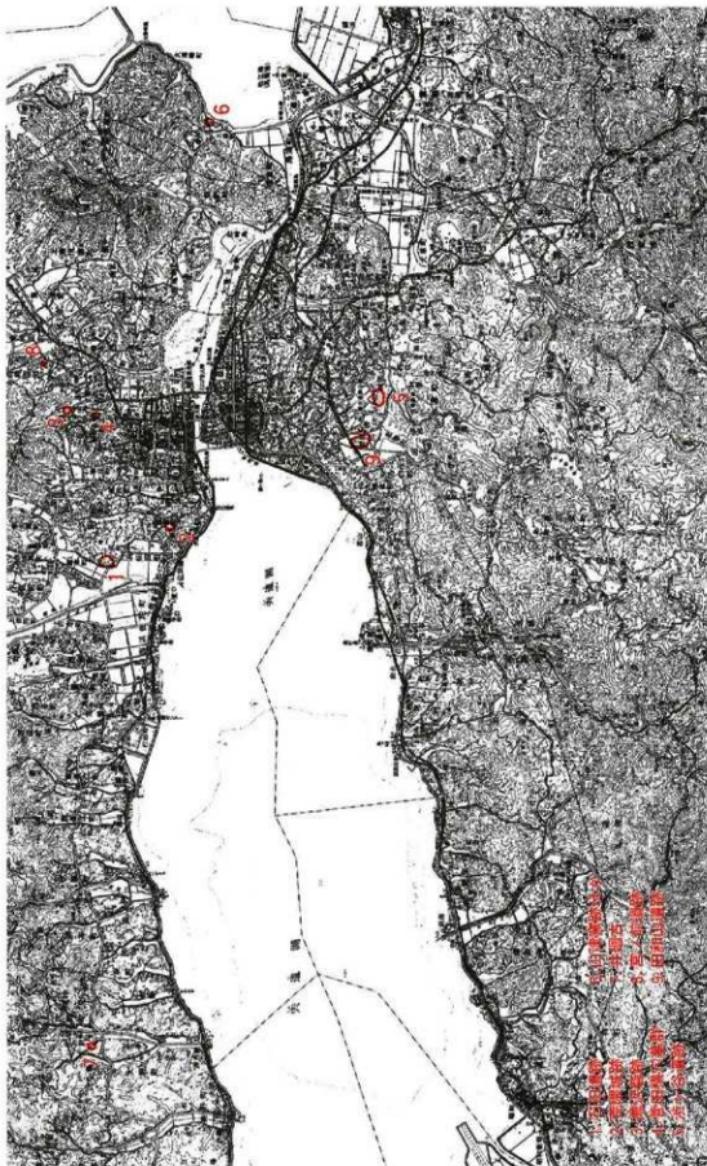
菅田横穴墓群（4）は、松江市菅田町に所在する。ソフトビジネスパーク南側進入路の造成工事にともなう発掘調査である。調査の結果、横穴墓22穴が非常に密集した状況で検出され、後背墳丘をもつ横穴墓群であることも確認された。遺物は6~8世紀後半の須恵器や土師器が出土した。他の遺構としては、古墳1基、土礫墓1基を検出した。

渋ヶ谷遺跡群（5）は、松江市大庭町に所在する。松江総合運動公園隣接地用地文化財発掘調査事業として、平成14年度から継続して発掘調査をおこなっている。今年度は指松地区について調査を実施したところ、上端幅7.5~16m、深さ1.5~1.8mを測る大溝や連続ピットを持つ溝状遺構3条を含む溝状遺構26条を検出した。

山津遺跡ほか（6）は、松江市大井町に所在する。県道本庄福富松江線道路改良事業にともない、平成13年度から継続している発掘調査である。これまで2基の登窯や小道等を調査している。本年度はH-2区について調査を実施した。遺構は存在しなかったが、窯壁と7世紀中~後半の須恵器を大量に含む包含層を確認した。

井廻古墳（7）は、松江市上大野町に所在する。大野町上根尾地区農道整備工事にともなう発掘調査である。分布調査時には石棺の一部が残存していたが、本調査時には石材が全て抜け落ちていた。本年報をもって報告書に代えるものとする。

宮ノ前遺跡（8）は、松江市持田町に所在する。個人住宅地の造成工事にともなう発掘調査である。堅穴住居2棟ほか土壙等の遺構が検出された。各遺構の時期は明確ではないが、出土遺物は弥生時代後期~古墳時代前期のものが大半を占めていた。本年報をもって報告書に代えるものとする。



発掘調査地位置図 (S=1 /10000)

石田遺跡

所在地 松江市浜佐田町、薙津町地内

調査原因 島根県松江農林振興センターによる松江西部2期地区農林漁業用押発油税財源身替農道整備事業（浜佐田トンネル）

調査期間 平成14年7月～12月、平成15年4月～6月

経緯

平成14年7月からトンネル出口部分の調査を実施、12月に終了し、その後工事が行われたが、平成15年2月に法面が崩壊し、工事計画が変更された。これに伴い新たな開発予定区域で試掘した結果、古墳と弥生住居跡が発見された為、平成15年4月から6月に調査を行ったものである。

調査概要

(1) 弥生住居跡

平成14年度の調査で一部を検出していた加工段につながるもので、南向き斜面に立地し、東西の全長は12m、南北幅は3mが残存していた。柱穴と考えられるビットはあるものの、うまく並ばず、上屋の想定がしづらいものであった。遺物は床面や溝から弥生時代中期後葉の壺や甕、土すい、たき石などが出土している。

この加工段が埋没した後、上層から掘り込まれた箇所もあり、須恵器片が出土している。

(2) 古墳

一辺12m、高さ1.5mの方墳である。墳丘は、凹表土を残して周囲の地山を削り、削った土を旧表土上に積み上げて築成している。主体部は、墳丘の中央に盛土の上から掘り込まれた二段掘りの土壙で、掘り方の大きさは4.6×2.2m、深さは最深80cmである。土壙の底にはさらに浅い掘り込みが見られ、削竹形ではあるがいわゆる舟底状の木棺があったものと推測された。棺底にあたる部分からやや浮いた箇所に赤色顔料（水銀朱）が撒かれており、銅鏡（5花文の内行花文鏡）1面と各種の玉類（勾玉4、管玉6、垂飾石4、ガラス製丸玉1、小玉160以上）が副葬されていた。

また、幕壙の南東側小口には細長い掘りこみが設けられ、中から鉄製の刀子1口が出土した。

本古墳が作られた時期は、丘陵頂部の立地、木棺の形状、ヒスイ製勾玉の存在、垂飾石の類例、刀子の形状などから、古墳時代前期末の築造になる可能性が高く、また、被葬者は銅鏡や玉類などの副葬品から見て、かなりの有力者層に属していたことが窺える。

（瀬古 諒子）



弥生中期加工段



石田古墳主体部

荒隈城跡

平成15年度に調査を実施した荒隈城跡は、松江市国屋町西ノ谷700・701-1・701-2に所在する。個人住宅建設工事にともなう発掘調査で、平成15年12月10日から平成16年3月17日にかけて実施した。暖冬予報に反して積雪が多い中、山陰の冬の厳しい作業であった。

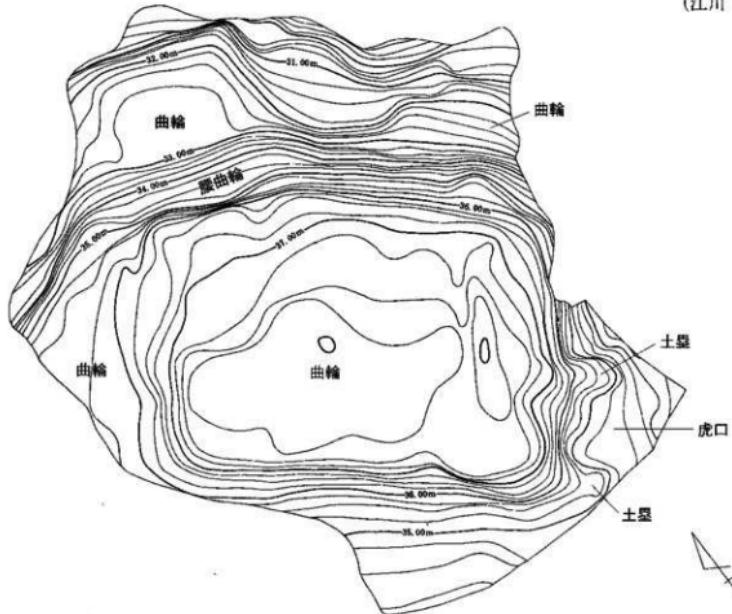
調査の概要

調査区は、表面観察だけでも曲輪の形状や配置状況が明瞭であった。全面発掘調査を実施したかっただが、期間等の諸事情から、平坦面のみ全面発掘をおこない、斜面についてはトレント調査のみをおこなった。

その結果、山頂部の広い曲輪の周辺は切岸となっており、その造築状況は、まず地山を急峻にカットした後に約1m近い盛土を行って肩部となっていた。山頂から下方にトレントを掘って土層を観察したところ、北側斜面には腰曲輪を形成する造作がおこなわれており、さらにその下にも曲輪を形成する地山加工および盛土が観察された。調査範囲が限られ、調査区周辺には切り出した竹木が山積された状況であったため、トレント調査で確認した曲輪の形状や広がりまでは詳細にすることはできなかったが、大規模な土木工事を伴ったしっかりした山城であることがわかった。

虎口は調査区南東端にあり、平坦面を切岸と土塁で「コ」の字状に開む形状を呈していた。

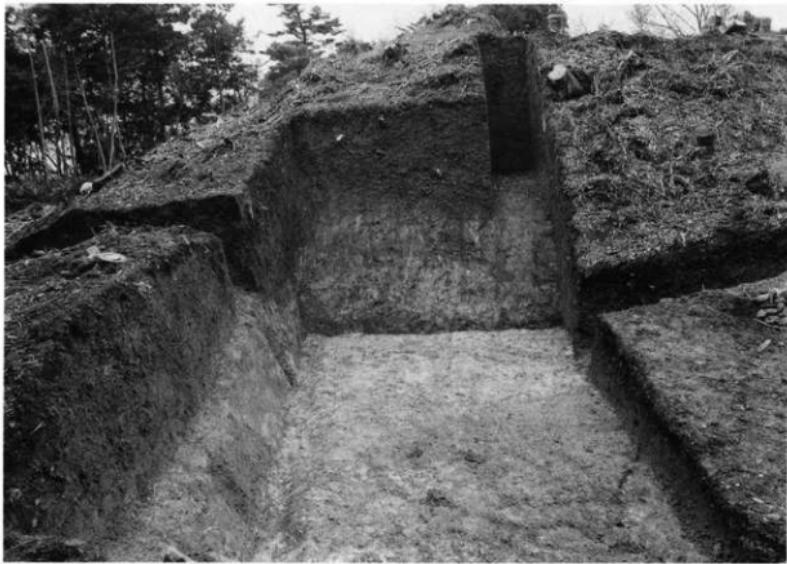
(江川 幸子)



調査前地形測量図



山頂部曲輪の切岸造築状況



虎口検出状況（左側半分）

薦沢砦跡

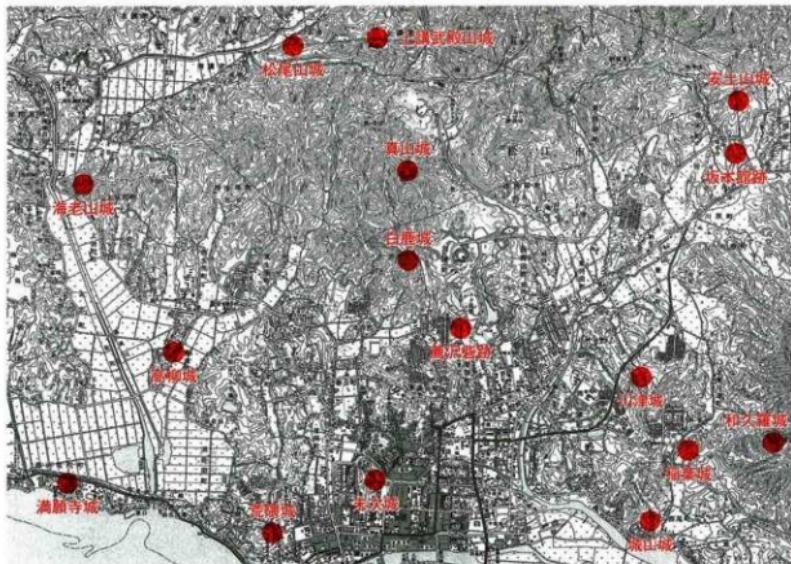
本遺跡は松江市街地の北側、ソフトビジネスパーク進入路予定地内の造成に伴って確認された遺跡で、法吉町に位置する。北山山地から南に派生する丘陵上にあり、北側には真山、白鹿山があり、それぞれ戦国期の代表的な山城（真山城・白鹿城）を有する。地形の表面観察の段階で丘陵頂上部に比較的広い平坦面が北から南へと続き、そして本遺跡で平坦面が東側へと方向を変えていることから、砦跡もしくは曲輪跡と思われた。

調査の結果、城郭に関する遺構は確認できなかったが、頂上部平坦面から土壙1基を確認した。規模は上端が長軸160cm、短軸50cm、下端が長軸140cm、短軸32cm、深さは22cmを測る。当初は「墓塚」と思われたが、副葬品等の遺物が出土せず、明確な確証は得られなかった。また、南側トレーンで旧表土らしき暗褐色土が見られたが、平面的な広がりではなく、窪地に溜まったものと判断した。

遺物は少なく弥生土器片、須恵器片（甕片）近代以降の陶磁器片、石鎌が出土したが、城郭に関連した遺物や遺構からの出土はなかった。

砦跡という考古学的な確証は得られなかったが、尾根続きの北側には真山城、白鹿城があり、周辺の歴史的環境や地理的条件等の広義的な意味において真山城、白鹿城の城塞群の一部であったかもしれない。また本遺跡周辺の丘陵には曲輪を思わせるような平坦面がいくつもあり、砦であった可能性は否定できない。

（石川 崇）



周辺の城跡・館跡の位置図（『出雲・隠岐の城館跡』島根教育委員会）



調査前全景



調査後全景

菅田横穴墓群

菅田横穴墓群は、松江市菅田町地内に所在する。ソフトビジネスパーク南側進入路の造成工事に伴う発掘調査で、平成14年度に松江市教育委員会が試掘調査を行った結果、遺構、遺物が確認された為、平成15年度5月から12月まで本調査を行った。

調査の概要

調査区は調査範囲1500m²、標高28mの小高い丘陵であった。調査の結果横穴墓20穴、後背墳丘2基、古墳1基、土壙墓1基、溝状遺構1条を確認した。また、平成16年度から行われた造成工事中に新たに横穴墓2基と土壙墓1基が確認され、合わせて横穴墓22穴、土壙墓2基となった。今回の年報では横穴墓群と後背墳丘について概要を報告する。

横穴墓群

検出された22穴の横穴墓は丘陵の標高18.0m～25.0mの東から南、西側の斜面に存在していた。玄室の大きさは奥行や高さが2.0m前後の横穴墓が多かったが、22穴中5穴は1m未満の小横穴墓であった。玄室の形態もテント形、ドーム形、整正家形など様々であった。玄室内には横口式の石棺が置かれた穴、敷石が並べられた穴などがあり、また20号穴の床面からは8個の黒い物体が検出され棺台と思われた。分析の結果、細胞構造が全く観察されず、褐炭であることが確認された。

多くの横穴墓の閉塞部には完掘時浅い溝と削り込みが見られ、木蓋をしていたと思われる。しかし



菅田横穴墓群全景（南東から）

検出時には溝の上に多くの礫が積まれていたところもあり追葬が行われたと考えられる。

遺物は須恵器の蓋壺が多く、他に長頸壺、高壺、瓶、了持壺など、土師器は丹塗りの皿や壺、畿内系の壺、甕などが出土している。出雲4期から8期(6~8世紀後半)の遺物が多く出土しているが、埋土中からは回転糸きり痕のある土器も出土している。刀子、大刀などの鉄製品、勾玉、管玉、切子正などの玉類、耳環も出土した。また、22穴中3穴からは頭蓋骨、足の骨など人骨や歯も出土している。

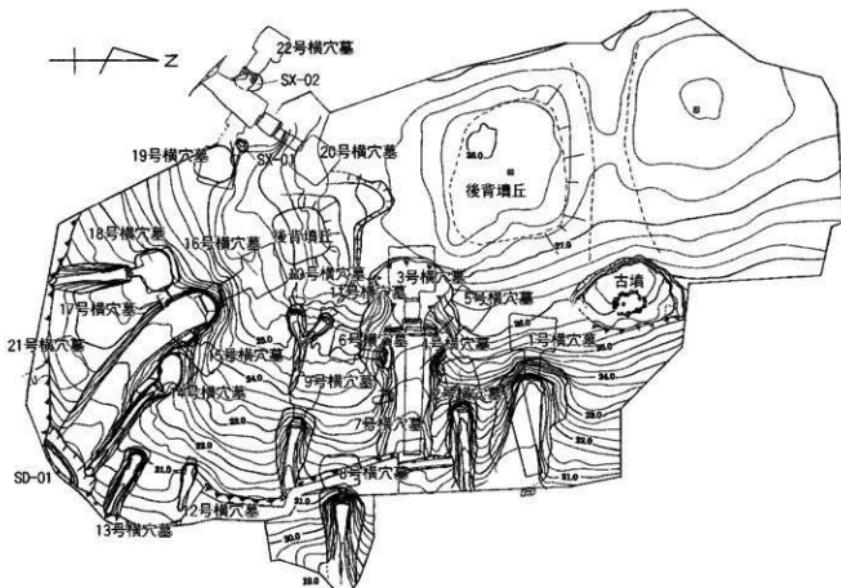
後背墳丘

丘陵の尾根上には2ヶ所の墳丘が存在した。南側の墳丘は地山面をやや整地した上に、一番厚い所で120cmの盛り土をして墳丘を造っていた。主体部は無く、北側には浅い溝があり、溝の埋土中からは子持ち壺の子壺や長頸壺の底部が出土している。

小 結

菅田横穴墓群は調査範囲が狭い割には多くの遺構、遺物が確認された。出土遺物をみると6~8世紀にかけてこの丘陵に横穴墓が造られ、祭祀が行われていた可能性があると考えられる。本遺跡周辺にも赤倅切通横穴、桜崎横穴などがあるが、松江市の橋南に比べて橋北に確認されている横穴墓は少なく貴重な資料が得られたと思われる。

(広瀬貴子)



菅田横穴墓群調査後地形測量図・遺構配置図 (S = 1 / 300)

渋ヶ谷遺跡群

猪松遺跡

渋ヶ谷遺跡群は、松江市上乃木町にある総合運動公園内の3つの低丘陵上に位置する。本遺跡は3つある低丘陵の内、南側に位置し、平成13年度から断続的に調査が行われ、近世後期以降の道路跡や奈良時代もしくはそれ以降の大溝や連続ピットをもつ溝状遺構等が確認されていた。平成15年度はそれらの遺構の規模を確認するために丘陵全体にわたって全面調査を行った。

調査の結果、大溝は長さ58m以上、上端幅が最大で16m、もっとも狭いところで7.5m、深さが1.5~1.8mを測る。西から東に向かって下降し、底面の形状は東から西に向かってV字型~U字型~丸型と変化していく。堆積土層から“水つき”と呼ばれる水平堆積層や土中の鉄分の沈着による硬化した層が確認されるなど、地質学的にも興味深い土層だが、大溝の用途や、なぜ“水つき”的な水平堆積層が形成されたかなど不明な点が多い。



連続ピット内遺物出土状況

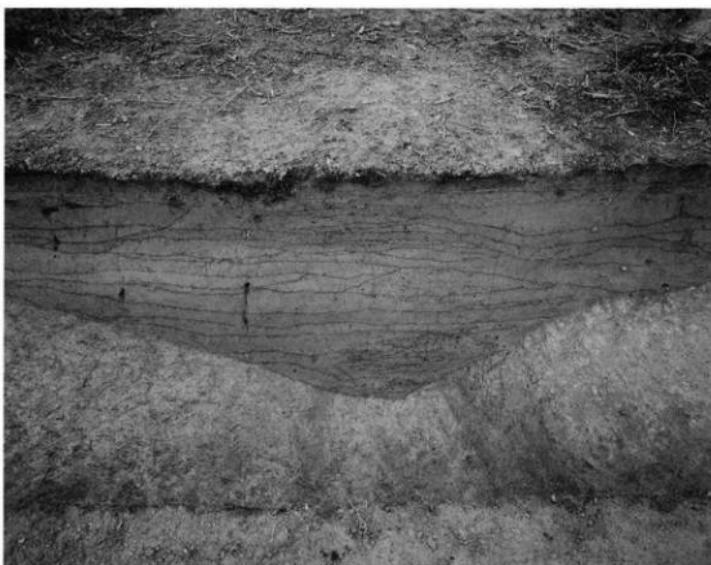
連続ピットを持つ溝状遺構は、溝の底面に直径25~90cm、深さ5~15cmを測る円形土壙が掘り込まれ、中には5~10cm大の石が出土し、埋土には固結した橙灰褐色土が堆積していた。このような連続ピットを持つ溝状遺構は道路状遺構と考えられる場合が多く、“波板状凹凸面”と呼ばれている。道路の維持管理のために掘られたと言われているが、本遺跡で同様の目的で掘られたかどうかは不明である。本遺跡の東側にある勝負谷遺跡（平成5年度に調査）や西側にある深田遺跡（平成5年度に調査）からも同様に連続ピットを持つ溝状遺構が確認されている。それらと関連があるかどうかは不明である。

本遺跡周辺は古代山陰道の想定地があり、本遺跡もその可能性があるのではないかと考えられた。大溝は幅が狭く、“官道”として利用されたとは思えない。江戸時代の絵図面から大庭村・佐草村から乃木村に抜ける道があったとされ、古代においても道路であった可能性もあり、“間道”的な道だったかもしれない。

（石川 崇）



連続ピットを持つ溝状造構



大溝の土層堆積状況

山津窯跡ほか

山津窯跡は松江市大井町に位置する。県道本庄福富松江線道路改良事業に伴い、平成13年度から調査を実施している。調査は道路拡張予定地の西からA区・B区・C区……と呼称し、13年度はA～C区を、14年度はH～N区を、15年度はJ～2区をそれぞれ行ってきた。本報告書の刊行は16年度末であるが、既往の調査については、各年度の埋蔵文化財年報を参照にしていただきたい。

平成16年度については、H～2区(440m²)の調査を実施した。この調査区は東にH区、西にJ区と隣接している。H区とJ区は、それぞれ山津1号窯（6世紀末～7世紀初頭）、山津4号窯（8世紀初頭）の須恵器窯を検出しており、北西10～20mでは立会調査において山津2・3号窯が検出されている。すなわち、H～2区は山津地域の中でも、最も窯跡が密集する地点に該当する。

H～2区は、調査前、稻穂を干すための、はで木を入れておく小さな小屋が建てられており、北側（道路側）から南側（コンクリート敷き小道）に向かって急激に落ちた地形を示していたが、地権者の言によれば、戦後に小屋を造成する時に水平にしたとのことであった。

H～2区の基本層序としては、バラス・及び茶色盛土等の撤去下には層厚20～50cmの暗茶褐色土のシルト層が見られる。これは西端で高く（標高8.5m）、西側で急激に落ち込み、中央以東は標高7.8m前後で水平堆積している。この層からは、新しいものでは8世紀代の坏類が出土した。同層はある



H-2区全景（北西より）



H-2区 窯壁片・須恵器検出状況

定点では旧表土を形成していたかもしれない。

それより（標高7.5m）以下は赤茶褐色の砂質土が最大1mほど堆積しており、地山面（黄色シルト）に至る。この包含層は赤く焼けしまったような砂質土で須恵器・礫が多く含まれていた。ブロック土や炭層によって細かく分層を試みたが、細分の識別は困難で基本的には単層と考えてもよいであろう。出土遺物も概ね7世紀中～後半で時期的に大きな差異は顕著ではない。また、須恵器に混じって窯壁の塊が大量に出土した。いずれも現位置を保っているものではなく、窯壁の破片も辺1～5cm程度の小さなものが大部分を占めていた。

H-2区ではこの他、明確な遺構は検出されていない。当初、窯壁が大量に検出され、窯跡の存在も想定して調査を実施したが、いずれも現位置を保っているものではなく、辺1～5cm程度の小規模なものが主体であり、共伴する須恵器も概ね時期的なまとまりがある。

付近には多数の窯跡が立地し、数百年にわたって窯が築かれ続けたことを考慮すれば、付近にあつた7世紀中～後半の窯を人為的に破壊して、それが破棄されたような状況が考えられないではなかろうか。

これまでの周辺での調査によって、山津付近は6世紀後半～8世紀（もしくは9世紀）の長期間に渡り、極めて近接して須恵器の窯が築かれ続けていることが明らかになっている。今年度の調査は、これら集中する窯跡地点について、廃絶した窯を破壊するなどの人為的活動を想定される知見が得られたと考えられるだろう。

（藤原 哲）

井廻古墳

位置と環境

井廻古墳は、松江市上大野町宇井廻2666-3に所在する。松江市のほぼ西端で、大野川が浸食した谷に向かって開く、小さな谷に面した低丘陵上である。

周辺の遺跡としては、大野川をはさんだ東側丘陵上に本堂古墳群がある。その周辺では鉄鎌が表採されているが、時期までは確定できていない。中世には大野氏が谷のやや上流に居館をおき、東方の本宮山に山城を築いている。

調査に至る経緯

松江市が策定した上根尾農道整備事業にともない、松江市教育委員会が遺跡分布調査を実施した。その結果、果樹園の崖下に多数の平石が散乱している状況と崖上端部に副石左右各1枚と小口石1枚が残存し、組合箱式石棺が存在していたことを確認して本調査に至ったものである。

調査の結果

松江市教育委員会の遺跡分布調査時には石棺の石材が残存していたが、本調査時には、石材は全て抜き取られていた。したがって、わずかに残った石材の痕跡のみが調査の対象となってしまった。

調査の結果、石棺の主軸はほぼ北北西-南南東と推察された。石材は厚さ5~7cmの板状削石で、小口石が左右側石に挟まれる形状で、床面に敷石はみられなかった。北北西端の小口部分での石棺の内法は約30cmであった。石材の設置方法は、残存状況不良のため確認することができなかった。

次に、この箱式石棺が周溝をもつものであれば、その形状・規模をする必要があり、果樹の隙間をぬってトレチ調査を実施したが、周溝を検出することはできなかった。したがって、事業名から古墳とは呼称しているが、単なる組合箱式石棺であったかもしれない。



井廻古墳位置図 (S = 1/25000)

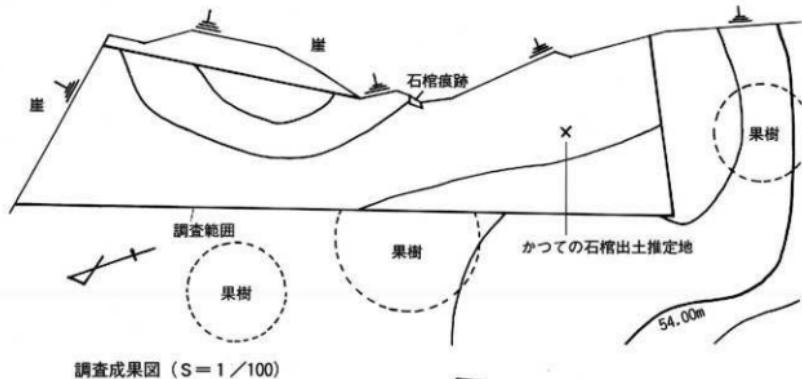
石棺内から副葬品は出土せず、石棺が造られた時期は不明である。

小結

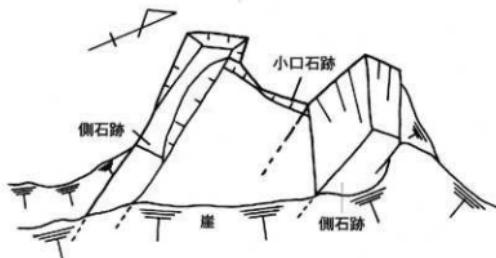
今回の調査では石棺に関する情報をほとんど得ることができなかった。

地権者の話によれば、果樹園をつくる前に自家用重機で元来の地表面より1m近い削平をおこなっており、その際にも今回露出していた石棺の約5m西側の地点で石棺が出土したことである。石棺は、少なくとも2基が存在していたようである。

(江川幸子)



調査成果図 ($S = 1 / 100$)



石棺痕跡実測図 ($S = 1 / 10$)



宮ノ前遺跡

位置と環境

宮ノ前遺跡は松江市のやや北東、持田町字宮ノ前200番地4筆に所在する。本遺跡は小高い丘陵の裾部にあり、調査前は畠地であった。近くには北山山地があり、近年ソフトビジネスパークが造成された。

本遺跡周辺には宮垣古墳群、杉谷古墳群、少し離れた所に太田古墳群など多くの古墳や大佐遺跡や藤ヶ谷遺跡などが存在している。

調査に至る経緯

個人住宅地の造成工事に伴う発掘調査である。平成15年に松江市教育委員会が試掘調査を行った結果、遺構と遺物が確認された為、平成16年1月から3月まで調査を行った。

調査の結果

本調査区は調査前畠地であった。耕作土は10~20cm程度しかなく、掘り下げるすぐに遺構面が検出された。耕作土掘削後の面を第1遺構面とし、地山面を第2遺構面として調査を行った結果、第1遺構面からは土器溜り、SD-01~04、SX-01、SK-01を、第2遺構面からはSD-05、06と住居址2棟を検出した。また調査区内からは多数のピットが検出された。



宮ノ前遺跡と周辺遺跡の位置図 (S = 1 / 25000)

<第1造構面>

1) 土器溜り

調査区北隅1.0mの範囲で検出された深さ50cmの落ち込みで、埋土には炭も多く混ざっていた。古墳時代中期の壺の口縁や高坏などが多く出土した。

2) SD-01~04

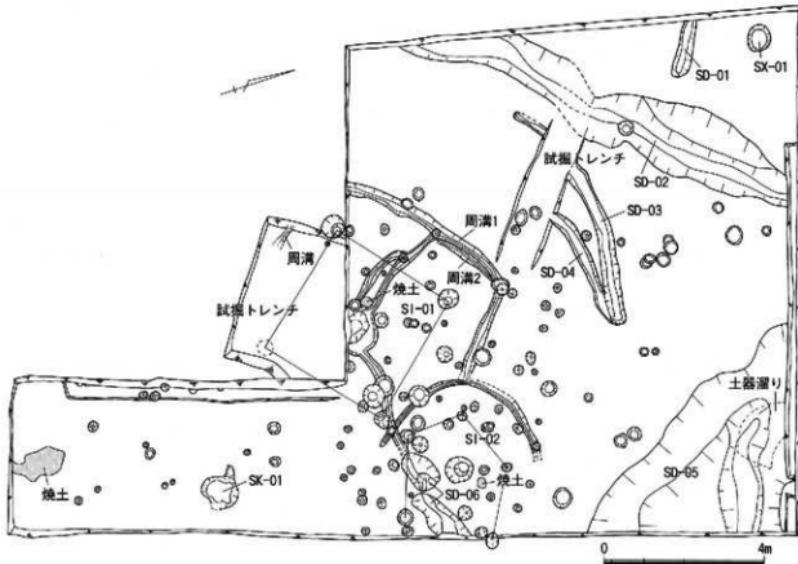
これらの溝状造構は調査区西側で検出された。SD-01は埋土が耕作土であった為、畑の耕作時に掘られたものと思われる。

SD-02は斜面の地山面に掘削された溝と思われるが、溝の下方（東側）の壁面は削平されており10cm程度しか確認されなかった。埋土からは弥生土器と一緒に磁器や江戸時代の陶器碗などが出土している。

SD-03、04は2条の深い溝で、土層断面からSD-04の後にSD-03が掘り込まれたことが確認された。SD-03からは古墳時代前期の壺の口縁が出土している。これらの溝状造構の性格は不明である。

3) SX-01

SX-01は調査区西端で検出された土塙墓で、土師器の壺、高坏、壺片が出土している。これらの遺物は流れ込みではなく、埋土の上面から出土していることから、遺体を埋葬しその上に置かれたものと思われる。



調査成果図

4) SK-01

SK-01の床面に近い所からは糸きり痕のある須恵器片が出土しており、8世紀以降の遺構と思われる。

<第2遺構面>

1) SI-01

隅丸方形の住居址である。調査範囲が限られていた為、住居址全体を調査することはできなかつたが主柱穴は4本であったと考えられる。住居址のほぼ中央には深さ70cmのピットがあり、中央ピットと思われる。西側には周溝が2本あり、そこから中央ピットにかけて2条、中央ピットから東側に向かって1条の深い溝が検出された。確認された周溝間の距離は5.05mを測り、住居址の大きさもほぼこれに等しいと考えられる。

出土遺物は細片が多く、床面から時期のわかるものは出土していない。埋土中から古墳前期の壺の口縁が出土している。

2) SI-02

SI-01の大方、東側で検出した竪穴住居址で遺存状態はよくない。明確ではないが主柱穴の配置からみて、平面プランは多角形状を呈すると考えられる。東側の未調査区に1本柱穴があると推定すると、6角形プランの住居址と推測される。埋土からは弥生後期の壺の口縁が出土している。出土遺物、住居址の形態からSI-01より古いと思われる。

3) SD-05、06

調査区東側で検出された溝である。SD-05からは弥生後期の遺物が出土しているが、自然流路の可能性が高いと思われる。

SD-06はSI-02の遺構面から検出された溝である。埋土からは弥生後期の遺物が出土しているが、この溝がSI-02に伴うものかは不明である。

小 結

今回の調査では溝状遺構5条、土壙2基、土器溜り、竪穴住居址2棟を検出した。また調査区内からはピットが多く検出され、他にも住居址があったと考えられる。

遺物は弥生時代後期前半から江戸時代の陶器まで幅広く出土しているが、弥生時代後期から古墳時代中期の遺物が多かった。弥生時代後期前半からの遺物があり、本調査区および周辺に住居が存在し人々が生活していたと思われる。

今回の調査は個人住宅の宅地造成に伴うもので調査範囲も限られていた。検出した遺構には性格が不明なものがあるが、調査区周辺で住居址の調査が行われていない状況では、当地域の古代史を考える上で貴重な資料を提供するものである。

(広瀬 貴子)



調査前全景（西から）



土器割り遺物出土状況（東から）



S X-01遺物出土状況（東から）



完掘状況（東から）



完掘状況（北東から）

第3章 平成15年度以前の調査

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H 5	釜代1号墳(ほか (寺津11号墳) (北小原3号穴)	西浜佐陀町	前期古墳。主体部2基確認。第2主墳は粘土桿を伴う長大な割竹型木棺で、水銀朱・鏡・玉類出土。第1主墳は現状保存。寺津11号墳は中期の方墳。北小原3号穴は現状保存	1994刊
H 5	菅沢谷横穴群	乃白町	6世紀後半~7世紀前半の12穴の横穴墓群。うち3穴から9体の占人骨出土。	1994刊
H 5	向遺跡	国屋町	奈良~平安期の集落跡検出。	1994刊
H 5	論田4号墳	西津田町	(課設立以前の調査報告書作成事業) 古墳時代後期の円墳。S60に調査された論田横穴墓群の調査成果も掲載。	1994刊
H 5	柴尾遺跡	上東川津町	主体部を3基持つ前期古墳と縄文時代後期の黒曜石を中心とする石器生産遺跡。	1994刊
H 5	角森遺跡	八幡町	弥生後期~古墳時代にかけての遺物包含地。	1994刊
H 5	敷居谷古墳群	東生馬町	5世紀の方墳を含む計3基の方墳検出。後世の祭祀関連の遺物も出土。	1994刊
H 5	出雲国分寺跡	竹矢町	完形で良質な瓦ばかりの瓦溜り検出。	1995刊
H 5	深山遺跡	大庭町	奈良~平安期の道路状遺構と円形土壙列を検出。	
H 5	岩汐跡ほか	大井町	一字一石経石を含む砾石経塚検出。	1999刊
H 5	出雲国府跡	大草町	直接国府に関連する遺構は検出されなかった。	
H 5	勝負谷遺跡	大庭町	さいの神と積石塚、古代と考えられる道路状遺構を検出。	
H 5	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は検出されなかった。	1999刊
H 6	柴尾遺跡ほか (柴尾古墳群)	上東川津町	縄文土器を伴う石器生産遺跡と古墳を調査。前期古墳主体部(削竹型木棺)からひすい製勾玉、鉄鎌出土。ほかに中期以降の古墳1基。	1995刊
H 6	敷居谷古墳群	東生馬町	中期末の方墳1基。後期初頭の方墳の主体部から太刀・刀子各1点出土。	1995刊
H 6	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は検出されなかった。	1999刊
H 6	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期から後期初頭の掘立柱建物跡群検出。	1999刊
H 6	舟津横穴群	薦津町	横穴墓2穴と近世貯蔵穴3穴を検出。	1995刊
H 6	筆ノ尾横穴群	東長江町	6世紀後半~7世紀中頃の6穴の横穴墓群。1穴に6体埋葬の横穴墓あり。	1995刊
H 6	寺の前遺跡	山代町	自然流路から布目瓦、陶製鷲尾、円面鏡、輸入陶磁器団陶磁器片が出土。	1995刊
H 6	黒田畠遺跡	大庭町	奈良時代の上塙内から墨書き土器・製塙土器・律令様式の土器が出土し、役所関連の遺跡が近辺にあったことを示す。中世末期の土塙墓6基検出。	1995刊
H 6	二名留遺跡	乃木福富町	古墳時代と近世の遺物包含地	1995刊
H 6	向山1号墳	大庭町	トレンチ調査で木盃掘の石棺式石室発見。	1996刊
H 7	向山古墳群	大庭町	32×20m以上の方墳。墳頂から子持壺出土。石棺式石室内の副葬品は搖き出されており、狭道から前庭にかけて馬具、武器類、玉・須恵器が出土。	1998刊
H 7	遼倉横穴群	朝酰町	6世紀後半を中心に7世紀前半まで続く計5穴の横穴墓。山陰地方初現期タイプ。	1999刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H 7	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物数片が出土。遺構は検出されなかった。	1999刊
H 7	宮尾古墳群ほか (柴尾遺跡) (柴尾古墓)	西川津町 上東川津町	石器や石鐵のほか、室町後期～安土桃山時代の五輪塔2基のほか、11基の土壙群を検出。	1996刊
H 7	袋尻遺跡群	乃白町 (現平成町)	堅穴式居2棟、土壙5基、後期古墳2基、近世墓2基などを検出。	1998刊
H 7	四王寺跡	山代町	調査範囲が狭く、四王寺との関連性を判断するには至らなかった。	1996刊
H 7	大久保遺跡	乃白町	焼土壙、ピットを検出。遺物は数点出土したのみ。	1996刊
H 7	川原後谷横穴群	川原町	墓道の一部のみ調査。	1996刊
H 7	寺山小田遺跡	矢田町	古墳時代中～後期の集落跡検出。2棟の建物内から玉類出土。	1996刊
H 8	小無田Ⅱ遺跡	山代町	山代郷南新造院(四王寺)の瓦を焼いた8世紀代の瓦窯跡3基を検出。2基は現状保存。	1997刊
H 8	米坂古墳群	西尾町	古墳時代中期～後期の方墳7基と墳丘を持たない埋葬施設8基を検出。	1999刊
H 8	柴Ⅲ遺跡	西川津町	弥生時代終末期の主造工房跡を含む堅穴式住居跡を3棟、掘立柱建物跡12棟、柱穴列3条等を検出。	1997刊
H 8	袋尻遺跡群	平成町	17ヶ所の調査で、古墳6基、堅穴式住居1棟、掘立柱建物1棟、溝状遺構3条、土壙3基、横穴墓3穴、古墓群を検出。	1998刊
H 8	松江北東部遺跡	上本庄町	堅穴式住居、掘立柱建物、祭祀跡などを検出。遺物は子持勾玉のほか、大量の土師質土器片が出土。	1999刊
H 9	大佐遺跡群	西持山町	弥生時代終末～古墳時代初頭の墳丘墓を含めた計8基の埋葬施設、土器棺2基、及び戦国時代の真山城塞群の一部を検出。	1999刊
H 9	米坂古墳群 柴尾遺跡	西尾町	古墳時代中期～後期の古墳群。柴尾遺跡は遺構・遺物は確認されなかった。	1999刊
H 9	松江北東部遺跡 (荒船遺跡)	上本庄町	繩文時代の有舌尖頭器のほか、中世の掘立柱建物2棟、井戸状遺構1基を検出。	1999刊
H 9	田和山遺跡群	乃白町	弥生時代前期～中期の3重の環壕を検出。山頂からは擣列と掘立柱建物、古墳前期の墓域を検出。銅剣形石劍、石鏡、石斧、弥生土器などが出土。	2005予
H 10	夫手遺跡	手角町	長海川河口の洪水により形成された遺物包含層を調査。漆波容器、木製の櫛は約6000年前のもので、全国でも最古級に属する。	2000刊
H 11	久米遺跡群	比津町	古墳時代後期～奈良時代の集落。堅穴式住居1棟、掘立柱建物11棟検出。甕、瓶、竈など遺物多数出土。	2000刊
H 11	門田遺跡	乃木福富町	弥生時代中期の自然流路、溝、土壤、ピット、杭列などを検出。付近の田和山遺跡との関連で注目される。	2000刊
H 11	大坪遺跡	山代町 大草町	溝と小ピットを検出。弥生、中世の土器片と「恐々譁解…」とかかれた木簡が出土。	2002刊
H 10 H 11	山和山遺跡群	乃白町	環濠外側の斜面より、弥生中期、古墳中期、平安～中世の堅穴式住居跡、掘立柱半建物跡、加工段(掘立柱建物跡?)を検出。	2005予
H 12	北小原古墳群	西浜佐陀町	石棺2基検出(うち1基が現状保存)。石棺内部から小型彷製鏡が出土した。墳裾から土器棺2基検出。	2000刊

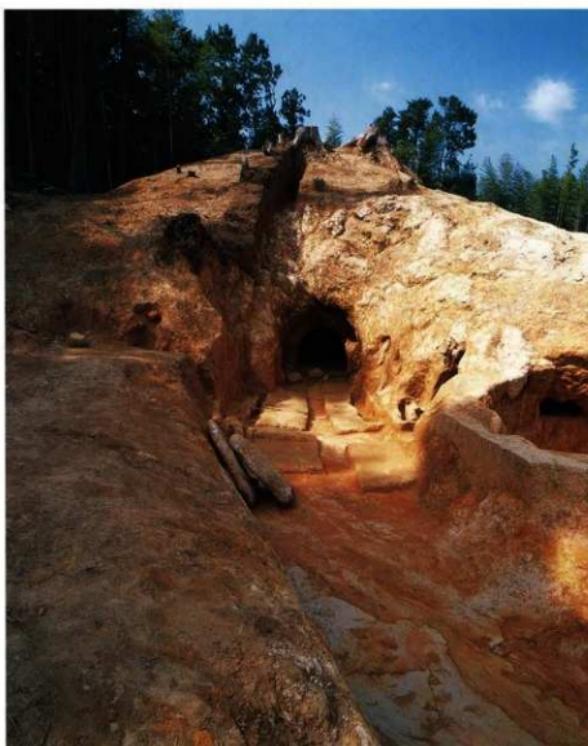
年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H12	田中谷遺跡Ⅲ区	法吉町	掘立柱建物跡と自然河道を検出。遺物は弥生時代後期の土器が中心で、木製品も出土。	2001刊
H12	雲垣遺跡	乃白町	弥生時代中期を中心とした遺物包含地。土器類のほか、木櫛、田下駄などの木製品も出土。	2001刊
H12	人坪遺跡	山代町 大草町	自然流路に挟まれた微高地の存在を土層により確認。調査地北側のトレンチでは木製品出土。	2002刊
H12	法吉遺跡	法吉町	自然流路からドングリ集積遺構を検出。縄文土器の細片や黒曜石が出土。	2002刊
H12	舍人遺跡	国屋町 黒山町	城跡に結びつく遺構は確認されなかった。近世以降の遺物が出土。	2002刊
H13	奥山古墳群	上乃木	古墳時代中期頃の古墳群7基のうち6基を調査。土師器、鉄剣、鉄鎌等出土。	2002刊
H13	大坪遺跡	山代町 大草町	自然河道を検出。古墳中期～後期の上器類のほか、木製品も出土。	2002刊
H13	荒隈城跡 (小十太郎地区)	国屋町	荒隈城に關係するものは確認されず、近世以降の古墳群を検出。幕末～近代の陶磁器、土師質土器出土。	2002刊
H13	法吉遺跡	法吉町	土壙や杭列を検出。弥生～10世紀代の土器のほか、田下駄などの木製品も出土。	2002刊
H13	山津窯跡	大井町	窯跡推定地以西の水田を調査。土壙、溝状遺構、旧河道などを検出。古墳～奈良時代の遺物出土。	2006予
H13	田和山遺跡	乃白町	南側丘陵の東西両斜面を調査。建物跡、土壙、小石棺、自然水流路などを検出。	2005予
H14	石田遺跡	浜佐田町 鷹津町	弥生中期～奈良時代の堅穴住居や掘立柱建物、墓壙、水溜遺構等を検出。木製品が大量に出土。	2004刊
H14	丸丸遺跡	上大野町	溝2条・土壙3基を検出。	年報VII に掲載
H14	渋ヶ谷遺跡 (搭松地X)	上乃木町	近世道路、連続ピットを持つ道路状遺構や溝状遺構、上幅6～7mの断面V字～逆台形の大溝を検出。	2005予
H14	田和山遺跡群	乃白町	自然流路跡、掘立柱建物、小石棺を検出。	2005予
H14	法吉遺跡	法吉町	湿地層から、弥生～10世紀の土器片と木製品が出土。	2004刊
H14	山津遺跡	大井町	古墳時代後期・8世紀前半の須志器窯跡の他、道路状遺構・土壙等を検出。鷹尾・陶棺序も出土。	2006予

埋蔵文化財課年報Ⅵ

2005年1月

発行 財團法人
松江市教育文化振興事業団

印刷 有限会社 高浜印刷
松江市東長町902-57



菅田横穴墓群 16号横穴墓